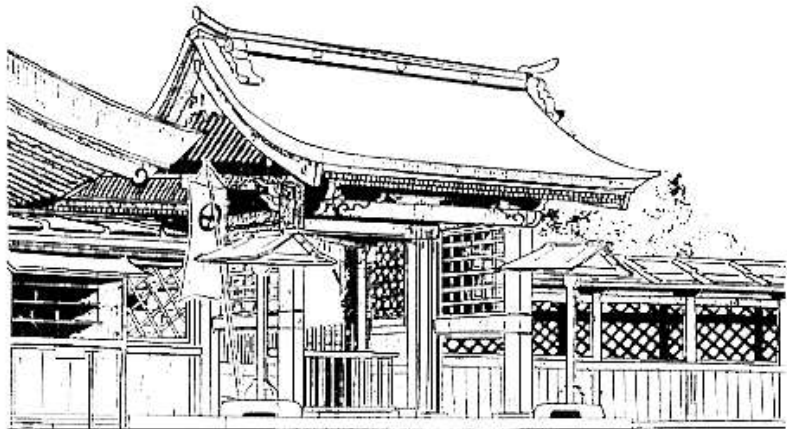
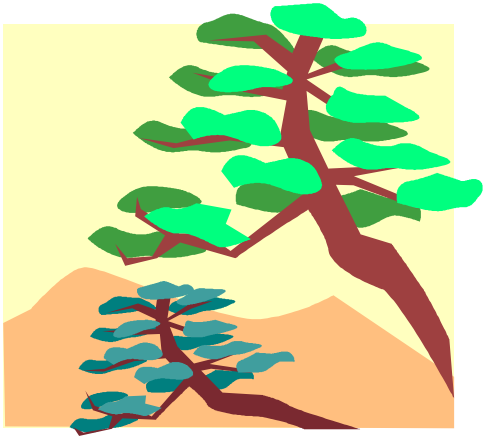


千本松原の 謎を探れ！



はじめに

千本松原の周囲の様子や自然に目を向ける活動です。ワークシートは子どもたちが体を使い、五感で調べられるように作られています。

下の解説をよく読んでやり方を説明すれば、子どもたちは自分たちでどんどん進めることができます。子どもたちが積極的に発見したり考えたりできるように、時には相談に乗ったり一緒に探してみましよう！

活動後の話し合いでは、子どもたちの発見する力や感じる力、想像力に驚かされることでしょう。

1. 活動のねらい

- この活動では千本松原の自然や周囲の観察、歴史的背景について考えることができます。
- 調べたことや考えたことを、簡単な絵や文でワークシートに書くことで、自分なりの表現ができます。
- 簡単な絵や文でワークシートに表現することや、発見したこと、感じたことなどを話し合うことで、千本松原の歴史的環境としての存在意義や価値に興味を持ったり、気づいたりします。物の見方や感じ方に興味を持ち、一人一人の考え方や表現の仕方の個性やすばらしさに気づくことができます。

2. 季節と時間

1：季節

一年中いつでもできます。

戸外での活動が気持ちいい季節に行なえば、よりいっそう楽しめるでしょう。

2：所要時間

30分程度でも実施可能ですが、できれば1時間くらいかけてじっくり調べ、考え、五感を使う楽しさを味わってください。

3. 対象年齢と人数

1：対象

小学3年生から大人まで。

- 基本的には誰でもできる活動ですが、歴史的環境に対する考え方や興味・関心の点からすると、小学校3年生以上が望ましいと思われます。
- それより年齢が下の子どもたちや時間がない場合には、項目を選んで活動することもできます。また、大人と一緒にいて困っているときにはアドバイスしてあげるといいでしょう。

2：人数

1人でもできますが、2人以上で相談しながらの活動もできます。

- 6人以上の場合、行動のしやすさから3～4人のグループに分けるといいかもしれません。

4. 用意するもの

<千本松原の謎を探れ！>ワークシート
筆記用具

人数分
人数分

※画用紙などの少し厚めの紙に印刷すると、子どもたちは記入しやすいでしょう。また、画板のような下敷きになるものがあれば書きやすいでしょう。子どもたちの行動のしやすさも検討してください。

5. 進め方

①カードの配布・説明

〈千本松原の謎を探れ！〉のワークシートを配り、活動の仕方を説明する。

- 治水神社から千本松原を歩きながらワークシートに記された視点で、付近の自然環境や歴史的環境を五感を使って調べ、自分なりに考える。
- 考えたことや周辺の環境について、簡単な絵や言葉でワークシートに記録する。

• 「自分の目で見て自分で考える」

ワークシートのヒントを手がかりにしながらも「まず自分の目で実物をよく見て、自分の頭で考えること」が大切です。

- 子どもたちがじっくり考えて、しっかり書くことができる「時間の余裕」を与えてください。
- どうしても時間がとれない場合は、「全部できなくてもいいから、よく見て自分で考えてから書こう!」と説明してあげてください。

②分かち合い（感想・話し合い）

各自が考えた謎の答えや記録した自然の様子、思ったこと、感じたことなどを話し合う。

- 15分以上が望ましいのですが、少ない時間でも大丈夫です。話し合いをしていただくことが大切です。
- 活動の直後に話し合うことが望ましいですが、場所や時間などがなければ帰りの車中などや帰ってからでもいいでしょう。
- お互いの感じたことや発見したことが自然に出てくる雰囲気を作りましょう。
- 大人の方や先生方はたとえ帰りの時間が迫っていても、笑顔と心の余裕を忘れずに子ども達の言葉を聴いてあげてください。

6. 先生方へ

(1) <歴史的環境>としての千本松原の価値

岐阜県立千本松原自然公園に植えられているクロマツは、宝暦の治水工事（1754年～1755年）を成し遂げた後、薩摩藩士が薩摩から千本の「日向松」を取り寄せて植えたものと伝えられ、当時からのものは樹齢二百五十年以上といわれています。

また、治水神社には宝暦治水で工事を行なった平田靱負（ひらたゆきえ）と薩摩藩士たちが祭られています。3人の像は薩摩義士で、宝暦治水の工事を行っている様子をあらわしています。

松林の中には多くの松の大木のほかにも様々な種類の植物が茂り、治水神社ともあわせて鳥や昆虫など多くの生き物のすみかになっています。

このような豊かな松原の自然環境は、宝暦治水という自然の猛威に対する人間の営みの成果や、その犠牲に対する感謝の念から作られ、その社会的必要性によって今日まで残されていますが、近年はマツクイムシによる食害や松原に隣接する県道の交通量の増加による排気ガスなどにより、その環境に影響を与えています。

(2) 「低い土地の暮らし」との関連

この活動は「低い土地の暮らし」の学習と深い関連があります。

この単元の学習後であれば、学校で学習したことを思い出しながら、現地でワークシートの設問について考えたり調べたりすることで、体験を通して学習のふりかえりを行なうことができます。

また学習する前であれば、単元の学習の導入としてワークシートに書いたことや体験したことについて話し合ったりしながら、「低い土地の暮らし」について詳しく調べていく動機付けを図ることもできるでしょう。

どちらにしても、「薩摩藩士が植えた、樹齢二百数十年以上の松原」での体験を子供たちにとって思い出の深いものとして、学習に生かしていただけたらと思います。

環境学習教材 C-3 千本松原の謎を探れ? ワークシート記入例

<千本松原の謎を探れ>

※この答えそのものを求めているわけではありません。いろいろ見て、歴史や自然を感じ、気づき、想像することに、この活動を行う意味があります。

<見る>

最近植えられた小さな木から、高さ_____m程の木まで様々な高さの木があります。子ども達を選んだ木が何 m なのか、自分の背の高さの何倍なのか、子ども達が予想したことをくみ取って下さい。

<聞く>

風、水、ボート、車の音、虫や鳥の鳴き声 耳を澄ませて様々な音を探させて下さい。そしてどんな音が聞こえたか、みんなで共有して下さい。

<さわる>

高さ 1.2m 部分で、太い木だと幹回りが_____m程あります。根本部分になるともっと太いです。体で測ることにより、木を体で感じることを目的としています。「測った時どうだった?」「樹皮はがさがさしていた?」「樹皮がめくれているところがあった?」等の問いかけにより感じたことを引き出して下さい。

<におい>

他の学校さんのお弁当に匂いはしますか? 排気ガスの匂いはしますか? 昔はもっと澄んだ匂いがしたのかもしれませんが。この質問も様々な思いを引き出して下さい。

<であう>

アオサギ、カワウ、カモメ等水辺の鳥やスズメなどの里の鳥、バッタ、カマキリ、水辺にはトンボ、アメンボも見るができるかもしれません。水辺の環境には様々な生き物が生息しています。子ども達が見つけたことに対し「良く見つけることができたね」と感動を分け合ってください。